<令和８年９月定例記者会見>

１　開催日時

令和８年９月１０日（木）午前１０時３０分～午前１１時００分

２　場所

滝沢市役所　庁議室

３　来庁した報道機関

岩手ケーブルテレビジョン、読売新聞社、岩手日報社、朝日新聞社

４　発表事項

【案件外】

○滝沢共通商品券の期限内の使用について（観光物産課）

記者会見の冒頭をお借りして皆様に周知をさせていただきます。

４月中旬から市民の皆さんに、地域経済活性化・生活支援対策として順次配布した、滝沢市共通商品券の使用期限が、来月の１０月３１日（土）までとなっております。

８月末時点の利用率は６９．４％となっており、１億円ほどが未利用となっておりますので、共通商品券をまだ使用していない人は、期限内に忘れずに使用してください。使用できる店舗など詳細につきましては、滝沢市共通商品券事務局のホームページをご覧ください。期限内の使用をよろしくお願いいたします。

（１）第６回ニットーキッズサッカーフェスティバルの開催について（生涯学習スポーツ課）

本年で６回目となる「第６回ニットーキッズサッカーフェスティバル」を、９月１３日（日）に滝沢総合公園陸上競技場で開催します。

本イベントは、岩手県サッカー協会および滝沢市キッズサッカーフェスティバル実行委員会が主催し、新日東鋼管株式会社が特別協賛します。サッカー経験の有無を問わず、子どもたちが楽しくサッカーに親しむことができる参加無料のイベントです。

当日は、親子サッカー教室や補欠ゼロリーグ、U－９・U－１０クワトロゲーム、初心者サッカー教室など、多彩なプログラムを実施します。

親子サッカー教室では、親子でボール遊びやミニゲームを楽しみながらサッカーに親しんでいただくプログラムです。また、補欠ゼロリーグでは、小学生１～２年生の参加者でチームを編成し、リーグ戦形式の試合を行います。U－９・U－１０クワトロゲームでは、４人制のゲームを通じて、試合ごとにメンバーを入れ替えながら交流を深め、個人の勝ち点や得点を競います。さらに、初心者サッカー教室では、サッカー未経験の子どもたちを対象に、ボール遊びや基礎的な運動を取り入れながら、初心者でも楽しくサッカーに触れていただける内容となっております。

子どもたちがサッカーの楽しさを体験し、多くの仲間と交流できる機会となりますので、ぜひご取材いただき、広く周知にご協力くださいますようお願いいたします

（２）たきざわオータムライドの開催について（観光物産課）

一般社団法人滝沢市観光物産協会主催の「たきざわオータムライド」が、滝沢市東部地域を中心に開催されます。

このイベントは、e-bikeによるサイクリングで、東部出張所を出発し、秋の岩手山

を望む道、馬っこパークやネイチャーセンターなどの体験やふれあいが楽しめるスポットを巡るツアーとなっております。

初開催となった昨年は、参加者から大変好評をいただきました。ぜひ、皆様のご参加をお待ちしています。

（３）たきざわあそぼうさいの開催について（防災防犯課）

市では、９月２７日（日）にビッグルーフ滝沢において「たきざわあそぼうさい」を開催します。

本イベントは、いつ起こるか分からない災害に備えて、遊びながら防災を学び、知識を深めることのできるイベントで、様々な災害対応車両への搭乗体験のほか、大雨の体験やドローン操縦体験、放水体験など、防災に関する多くの体験ができる場となります。また、防災ヘリ「ひめかみ」による会場の上空飛行も予定しています。

なお、本イベントは、昨年に引き続き、株式会社ファムカンパニーが開催する 「おやこフェスタ」と同会場での同時開催となります。クッキングや各種ワーク ショップなど親子向けの体験イベントが盛り沢山で、飲食ブースやキッチンカーの出店も予定しています。入場無料ですので、ぜひご来場ください。本イベントの事前の周知及び当日の取材につきまして、どうぞよろしくお願いいたします。

（４）滝沢市コミュニティバス「たきバス」の実証運行開始について（都市政策課）

市では、地域における移動手段の確保と公共交通の利便性向上を図るため、これまで運行してきた福祉バスと患者輸送車を再編し、１０月２日（金）から、滝沢市コミュニティバス「たきバス」の実証運行を開始します。

今回の再編では、これまでの運行状況や利用実態を踏まえ、通院や買い物などの日常生活で利用しやすい公共交通となるよう、運行ルートや運行時刻、支払方法などを見直しました。また、実証運行期間中の６か月間は、運賃を無料とします。運行の詳細については、先日、全世帯に配布した案内チラシまたは市ホームページをご覧ください。

なお、運行開始に合わせ、１０月２日（金）午前８時から、柳沢地区コミュニティセンター前において出発式を執り行います。 出発式では、関係者によるあいさつなどを行った後、たきバス３号車の第１便の出発を見送ります。

また、出発式当日は、往路便に乗車いただいた方全員に、全号車において公共交通エコバッグをプレゼントします。

市民の皆さまには、ぜひ「たきバス」を積極的にご利用いただき、新たな公共交通の取り組みに対するご理解とご協力をお願いします。

（５）「２０２６芸術祭たきざわ」の開催について

この芸術祭たきざわでは、市民の皆さんの優れた文化芸術活動の成果を発表する機会と、広く市民の皆さんに芸術を鑑賞する機会を提供することで、滝沢市の芸術文化の振興を図ります。

１０月４日（日）から１０月１９日（月）までの期間中、演劇、舞踊・芸能、音楽・ダンス、展示の発表をビッグルーフ滝沢にて開催します。 また、市内小中学校作品展を、展示部門と同時開催いたします。たくさんの皆さんのご来場をお待ちしております。

（６）キッズ健幸アンバサダー養成講座の開講について（健康づくり課）

市内の小学校でキッズ健幸アンバサダー養成講座を開講します。

この事業は、有識者とオリンピアン・パラリンピアンが講師となり、児童生徒に健康維持の大切さ、スポーツのすばらしさや楽しさを伝え、健康づくりの伝道師である「キッズ健幸アンバサダー」を養成するものです。キッズ健幸アンバサダーに就任した子どもたちは、学んだことを家族などの身近な人に伝え、一緒に運動を続けることで、家庭や地域に健康づくりの輪を広げていきます。

授業の一環とすることで、運動が得意な子・苦手な子にもスポーツに触れる機会を提供し、児童生徒の運動リテラシーを向上させることも目的のひとつです。

講師としてオリンピアンとパラリンピアンの２人をお招きします。オリンピアンは、陸上競技で２００８年北京オリンピックに出場し、４×１００メートルリレーで銀メダルを獲得した朝原宣治さん、パラリンピアンは２０１６年リオオリンピック車椅子ラグビー銅メダリストの庄子健さんです。

なお、事業の実施には、公益財団法人ライフスポーツ財団のこども活動支援金を活用しています。

５　市発表案件について記者からの当日質問

記者：たきバスについて、福祉バスと同様、滝沢市が運行するということでよろしいですか。また、車両にはラッピングなどの装飾がされるのでしょうか。

都市整備部長：たきバスの運行は、福祉バスと同様に、市が運行します。ラッピングなどは行いませんが、たきバスであることが分かる表示を付けて運行いたします。

記者：市長から見てたきバスの魅力を教えてください。

市長：一番の魅力は、最大でも１時間程度で市の中心部まで移動できるようになったことです。これまでの福祉バスについては、運行時間や使いやすさなどについて、多くの市民の皆さんから、多くのご意見をいただきました。今回は運行する時間帯を広げた他、途中で手を挙げていただくと、バスが止まる区間も設けています。バス停まで行かなくても、利用できるサービスも用意していますので、まずは多くの皆さんに利用していただき、買い物や通院、友人との交流などに役立てていただきたいと考えています。今回は実証運行のため、さまざまなご意見をいただくと思います。ご意見については、しっかりと運行に反映し、改良しながら、より利用してもらえるものにしたいと考えています。

都市政策課長：都市政策課から、手を挙げて乗車できる区間について補足します。お手元のチラシをご覧ください。１号車から３号車まで、それぞれの路線図の中に「フリー乗降区間」と書かれている箇所があります。この区間では、バスの運行経路上の安全な場所で手を挙げていただければ乗車できます。主に市街地から離れた郊外の区間に設定しています。

市長：実証運行期間中の令和９年３月３１日までは、無料でご利用いただけます。令和９年４月１日からは料金を２００円、一部の区域では３００円で利用いただけます。

記者：チラシでは運行開始日が１０月１日となっていますが、１０月２日とどちらが正しいですか。

市長：運行開始日は、基本的には１０月１日になります。しかし、１０月１日は木曜日で、

運行日ではありません。そのため、実際にバスが走り始めるのは、翌日の１０月２日からになります。

記者：運行を見直した背景を改めて伺います。これまで、福祉バスや患者輸送車が運行されてきましたが、どのようなところが十分ではなかったのでしょうか。また、地域が抱えている交通の課題についても教えてください。

市長：従来の福祉バス・患者輸送車では、利用したい時間帯や行き先に十分に対応できない面がありました。そこで今回は「もう少し遅い時間まで走ってほしい」「バス停まで歩くのが大変だ」といった地域の声を踏まえ、運行内容を見直しました。今回の見直しにより、これまでより時間に余裕を持って、市役所で用事を済ませたり、周辺の商業施設で買い物をしたり、病院を利用できるようになります。皆さんの予定に合わせて、通院や買い物など、日常生活のさまざまな場面で利用していただきたいと考えています。

記者：改めてフリー乗降区間について質問です。たきバスから降りる際も声を掛ければバス停がないところでも降りられるという認識でよろしいですか。

都市整備部長：はい。フリー乗降区間であれば降りることができます。